

[花き部門]

2. リンドウ新品種「早中生1号(岡山リンドウ1号)」と「中晩生1号(岡山リンドウ2号)」の育成

[要約]

リンドウの新品種「早中生1号(岡山リンドウ1号)」と「中晩生1号(岡山リンドウ2号)」を育成した。両品種は、それぞれお盆と彼岸の最需要期の出荷が期待できる。

[担当] 高冷地研究室

[連絡先] 電話0867-66-2043

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県のリンドウ栽培面積は、F1系統「おかやまオリジナルリンドウ」の育成、普及に伴って増加している。しかし、「おかやまオリジナルリンドウ」は早生系統のみであり、規模拡大、労力分散の面から、中生、晩生系統の育成が望まれている。そこで、本県に適する中生、晩生F1系統の育成を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

- (1) 優良な岡山在来株を2001、2002年度から自殖・選抜して早生、中生、晩生系統の優良な親株候補を得た。
- (2) 2006年度に中生系統と早生系統を交配し盆出し系統、晩生系統どうしを交配し彼岸だし系統を作出した。
- (3) 2007年度に圃場に定植し、生育・品質調査を行いながら順次選抜を行い、「早中生1号」と「中晩生1号」を育成した。
- (4) 「早中生1号」は2009年度から現地1か所(西栗倉)、「中晩生1号」は2007年度から現地3か所(蒜山、加茂、西栗倉)で現地試験を行い、2010年度に適応性の確認を行った。

2. 育成品種の特性

- (1) 「早中生1号」は、現地試験の結果、7月下旬から8月中旬にかけて開花するお盆出荷が可能な品種である(表1、2)。花は、濃い青色であり(図1)、花段数は6～7段で、切り花長は100～150 cmである(表1、2)。
- (2) 「中晩生1号」は、現地試験の結果、9月中旬から10月上旬にかけて開花する彼岸出荷が可能な品種である(表1、2)。花は、淡い青色であり(図1)、花段数は5～6段で、切り花長は120～150 cmである(表1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「早中生1号」は育成直後の品種であり、耐病性を確認していないので、病害が多発する圃場への導入は避ける。
2. 開花期は地域や年により変動が大きいので、導入に当たっては、試作が必要であり、地域ごとの開花時期を検討する必要がある。
3. 「中晩生1号」は、開花が高温年には遅れる場合がある。
4. 早期普及を図るため、品種登録はしない。

[具体的データ]

表1 新品種の特徴

品種名 (仮称)	平均開花日 ^y (月/日)	花色 ^z	花段数 (段)	草丈 (cm)	シュート数 (本)
早中生1号	8月4日	2.5	7.3	163	11.7
中晩生1号	9月26日	3.5	6.4	174	14.3
オリジナル早生	7月20日	2.0	5.5	126	9.5

注) 平成19年6月に定植し、平成21年に調査した。調査地は津山市宮部下である。

^z1 (極濃青色)、2 (濃青色)、3 (やや青色)、4 (淡青色) の4段階で評価した。

^y平均開花日: 販売可能な切り花日の平均

表2 育成品種の開花期及び切り花品質

品種 品種名 (仮称)	株年齢	試験地	開花日 ^y (月/日)	草丈 (cm)	花段数 (段)	葉先 ^z 枯れ	白斑 ^z	赤軸 発生率 (%)
早中生1号	2年生	西栗倉村	7/25~8/10	107	4.6	0.0	0.0	0.0
	3年生	津山市宮部下	8/4 (平均)	163	7.3	0.0	0.0	0.0
中晩生1号	3年生	津山市加茂町	9/10~10/8	163	6.0	0.2	0.9	4.1
		津山市宮部下	9/26 (平均)	174	6.4	0.0	0.5	0.0
		真庭市蒜山東茅部	9/21 (平均)	170	5.6	0.1	0.0	15.0
		西栗倉村	9/上旬~10/上旬	181	7.9	0.3	0.0	0.0

^z0 (無)、1 (少)、2 (中)、3 (大)、4 (甚) の5段階で評価

^y開花日: 津山市宮部下と真庭市蒜山は、販売可能な切り花日を平均。現地試験は、聞き取り調査。



早中生1号



中晩生1号

図1 育成品種の切り花

[その他]

研究課題名: オリジナルリンドウの連続出荷と新作型の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2007~2011 年度

研究担当者: 藤本拓郎、森本泰史、森義雄、土居典秀、中島拓

関連情報等: 1) 平成21年度試験研究主要成果、61-62

2) 平成18年度試験研究主要成果、73-74